

STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信第9号 2026. 2. 9 発行

CGM（持続血糖測定）は、腕や腹部に装着したセンサーで24時間間質液中の糖濃度を測定する医療機器です。現在国内で認可されているのは以下の3種類です。当院では **FreeStyle リブレ 2** を使用しています。

種類	FreeStyleリブレ 2	Dexcom G7	ガーディアン™4 スマートCGM システム
メーカー	アボット	Dexcom	メドトロニック
CGMの種類	isCGM/rtCGM	rtCGM	rtCGM
センサー使用期間	14日間	10.5日間	7日間
MARD (血糖値との誤差)	9.2%	上腕部8.2% 腹部9.1%	上腕部10.6%
測定機器	リーダー スマートデバイス	モニター スマートデバイス	スマートデバイス
			
選択のポイント	手軽に長期間装着したい人、自分でスキャンしたい人に向いている。スマートデバイスはかざす必要なし（送信間隔1分毎）。	高精度のため、厳格な血糖管理には良い。自動送信で5分間隔。	5分ごとに更新。自動でインスリンを注入する機器と連携できる。

数値が低いほど
制度が高い

知っておくべき「タイムラグ」と「誤差」

間質液グルコースと血糖値

CGMが測定しているのは間質液中のグルコース濃度。そのため血液中のグルコースが間質液に移行するには少し時間がかかるため、血糖値との間には5~10分程度のタイムラグが生じます。血糖値が急劇に変動している時にはこの差が大きくなります。また、センサーの精度には限界があり、血糖値との間には誤差が生じます。

血糖管理はHbA1cだけでは不十分？ 新指標は「Time in Range(TIR)」

HbA1cは平均値であり、日々の変動幅や危険な高・低血糖の頻度を評価できません。そのため、重要視されるようになったのが、TIR(70~180 mg/dl) 目標範囲内に収まっていた時間の割合を示すもので、70%以上を目標とします。

文責：成田

